

教科目名 哲学特論 I (Special Lecture on Philosophy I)

専攻名・学年 : 全専攻 2年 (教育プログラム 第4学年 ◎科目)

単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 授業時間 23.25時間)

担当教員 : 堀 栄造

授業の概要			
現代哲学の主潮流の一つを成すドイツの哲学者エドムント・フッサールの創始した現象学の学問的方法論である現象学的還元が、どのように着想され、どのような構造をもち、どのような意義をもつのかを学ぶ。授業全般を通じて、学問にとっての方法論の重要性を理解させるとともに、哲学的思考力の養成に努める。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1), JABEE 目標(a)	
(1) 学問的方法論は、学問にとって生命線ともいべきものである。フッサールの現象学の学問的方法論の形成を学ぶことによって、学問にとっての方法論の意義や重要性を理解する。(定期試験)			
(2) 哲学的文章を通して西洋の思考および西洋の文化に接し、地球的視点から多面的に物事を考える力を身に付ける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	心理学主義的立場	○心理学主義的立場について理解できる。	【理解の度合い】
2	反心理学主義的心理学	○現象学的イデア学について理解できる。	
3	反心理学主義的イデア学	○還元思想の萌芽の生成について理解できる。	
4	現象学的イデア学	○実在的次元からの脱却の萌芽について理解できる。	
5	還元思想の萌芽の生成	○現象学的反省の可能性について理解できる。	
6	実在的次元からの脱却の萌芽		
7	現象学的反省の可能性		
8	空想における反省		
9	前期中間試験		【試験の点数】 点
10	前期中間試験の解答と解説 現象学的還元の着想	○現象学的還元の着想について理解できる。	【理解の度合い】
11	現象学的統覚	○現象学的統覚について理解できる。	
12	現象学的エポケーの着想	○現象学的エポケーの着想について理解できる。	
13	反省領域全体の非顕在化	○反省領域全体の非顕在化について理解できる。	
14	志向的構成と存在的現象		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意		ノートをしっかり取り、十分に復習すること。	【総合達成度】
教科書		堀栄造著、『フッサールの脱現実化的現実化』, 晃洋書房, 2006年。	
参考図書			
自学上の注意		授業内容をそのつど十分に復習しておくこと。	
関連科目		哲学特論II, 哲学概説, 倫理	
総合評価		2回の定期試験により評価する。評価が60点以上を合格とする。再試験は、総合評価が60点に満たない者に対して実施する。	
			【総合評価】 点